

相生町の読書調査

読書班（徳島県立図書館）

新 孝一¹⁾・金澤 泉¹⁾・山城 秀代¹⁾
吉田 隆¹⁾・岸本 真弓¹⁾・山本 みち¹⁾
宇山 博子¹⁾・眞本 英司¹⁾

1. はじめに

相生町における読書状況を把握するため7月14日に、「読書と図書館に対するアンケート」用紙を幼稚園4園、小学校4校、中学校1校に持参し、配布をお願いした。その日、5校と1園の図書室の見学を行い、「読書に関する座談会」を行った。

2. 調査の目的と方法

相生町における読書と、図書室の状況および県立図書館に対する意見を調査し、今後の読書活動や図書館活動の参考資料とする目的で、アンケート調査を行った。アンケート用紙は、児童・生徒用と保護者の2種類を作成した。

相生町教育委員会や各学校の協力により、児童・生徒用アンケートについては西納、延野、平野、日野谷の各小学校と相生中学校の児童・生徒306人に、アンケート用紙を配布し、299人の児童・生徒から回答を得た。アンケートの質問事項は、児童・生徒と保護者の2種類を作成した。児童数の減少や活字離れの傾向を考慮し、今年度はアンケート対象を、例年の小学3年～中学3年から小学1年～中学3年にまで広げた。

他方、保護者のアンケートについても、幼稚園児の保護者および小学1年と2年の保護者を加えて対象を広げた。また、家庭における読み聞かせといった点を新たに質問項目に加えるなど質問事項について考慮した。上記の各学校および西納、延野、平野、日野谷の各幼稚園の保護者349人にアンケート用紙を配布し、224人から回答があった。

図書室の見学は、日野谷幼稚園、西納小学校、平野小学校、延野小学校、日野谷小学校と相生中学校の図書室の見学を行った。各小学校の図書室は活用されていて、図書委員が運営に関わっていた。同町では児童数の急速な減少がみられ、4小学校は平成13年度から1校に統合される。日野谷幼稚園では、日当たりの良い図書室が設けられ、土曜日に絵本を借りて帰り、保護者に読んでもらう活動が行われている。

「読書に関する座談会」は7月14日に、町内の先生7名、保護者4名、教育委員会職員1名、読書班7名の参加のもとに、相生中学校で行われた。以下「読書と図書館に関する

1) 徳島県立図書館

アンケート」のまとめの順に報告を行う。

3. 読書調査—結果と分析

1) 保護者対象アンケート

このアンケートは、相生町内の幼稚園4園、小学校4校、中学校1校の協力のもとに、幼児・児童・生徒の保護者を対象に実施し、224通の回答を得た。今回は幼児の保護者も対象にしている。

回答者の構成は、幼児・児童・生徒の保護者を対象にしているために、年齢に偏りがある。また回答者は女性が多かった。

表1 回答者の男女別、年代別分布 (単位:人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	2	2	9	31	3	0	1	48
女性	2	8	95	65	5	1	0	176
合計	4	10	104	96	8	1	1	224

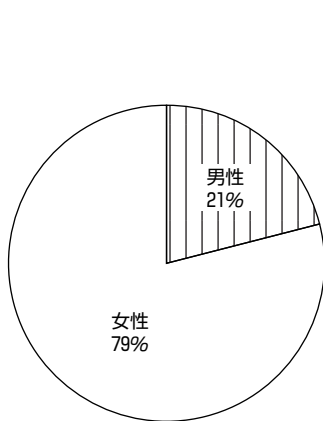


図1 回答者の男女別分布

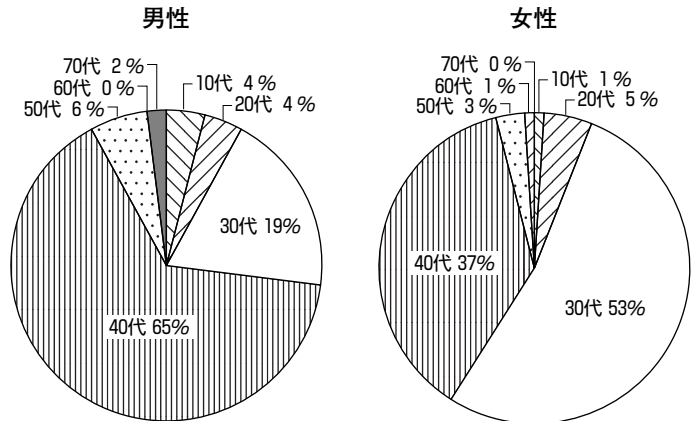


図2 回答者の男女別・年代別分布

問1. あなたは、余暇をどのようにすごしていますか。(3つまで○を)

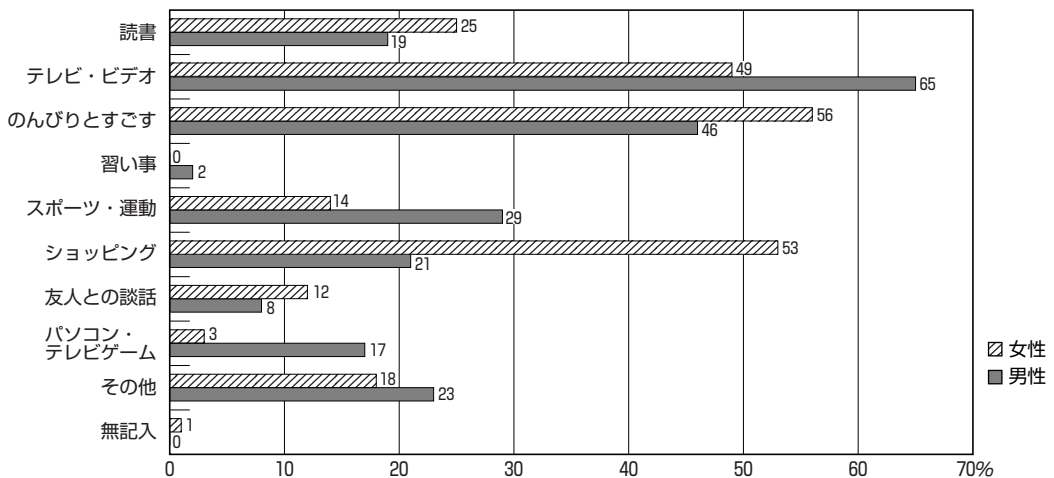


図3 余暇の過ごし方

分析：男性では、「テレビ・ビデオ」、「のんびりと過ごす」、「スポーツ・運動」の順に多く、読書は6位であった。女性では、「のんびりと過ごす」、「ショッピング」、「テレビ・ビデオ」の順に多く、読書は4位であった。「パソコン・テレビゲーム」は男性では7位、女性では8位で、読書より低かった。

問2. あなたは、1か月に平均何冊本を読みますか。(雑誌・マンガは除く)

分析：男性では52%、女性では43%が読んでいないと回答している。この数値は、他の町村に比べて高い。原因の一つとして考えられるのは、冊数の選択肢が「1冊以下」だった他の町村の調査に対し、今回は回答選択肢を「1冊」としたため、0～1冊の回答者が「読んでいない」を選択した可能性がある。そのため、読書環境との関係は、この調査からだけでは分析できない。

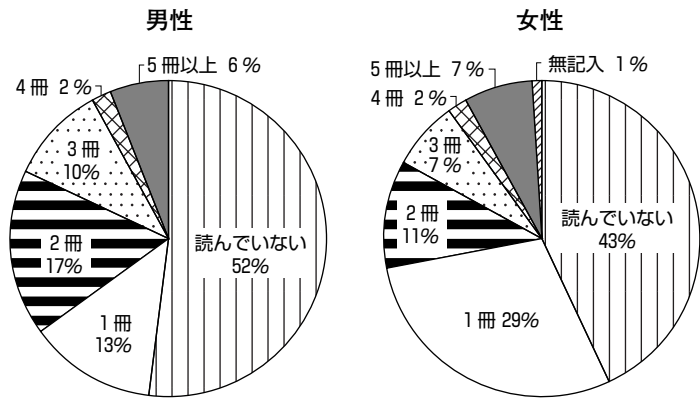


図4 1か月の平均読書量・本

問3. あなたは、1か月に平均何冊雑誌を読みますか。

分析：男性では43%、女性では30%が読んでいないと回答している。この数値も他の町村に比べて高いが、回答選択肢の関係から問2と同様のことが考えられる。

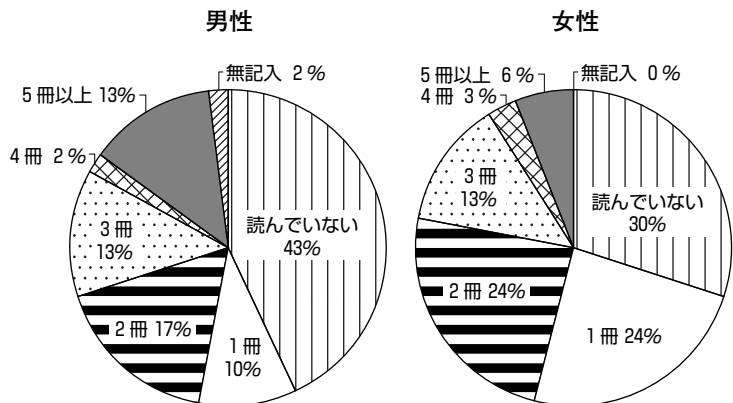


図5 1か月の平均読書量・雑誌

問4. あなたは、どんな目的で本や雑誌を読みますか。(主なものを2つに○を)

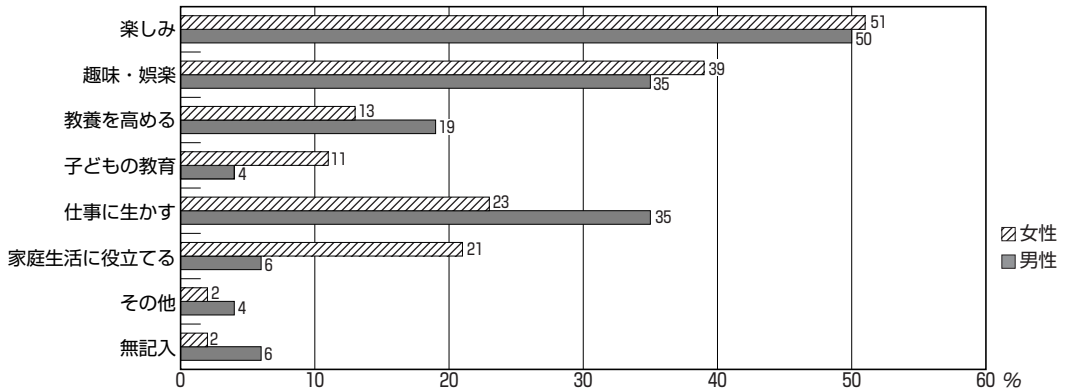


図6 読書の目的

分析：男女とも、「楽しみ」、「趣味・娯楽」、「仕事に生かす」が多い。女性では、「家庭生活に役立てる」(21%)とする回答が際立つが、「仕事に生かす」(23%)とする回答がこれを上回っていることも注目される。

問5. あなたは読みたい本や雑誌をどこで借りたり買ったりしていますか。(いくつでも○を)

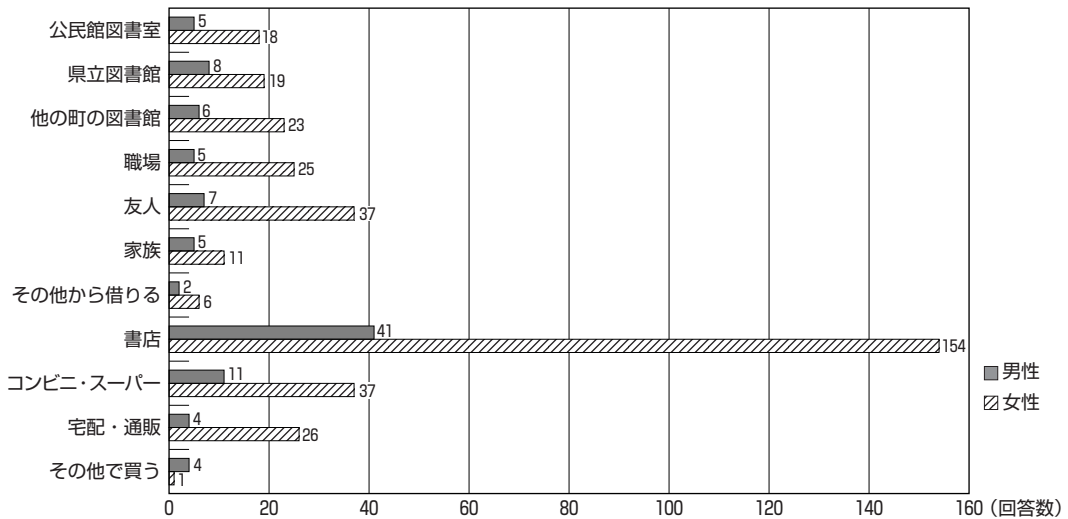


図7 本や雑誌の入手もと

分析：書店からとするものが最も多く、コンビニ・スーパー、友人と続く。近隣の町の図書館を利用する人が、公民館図書室や県立図書館を利用する人よりわずかながら多いことが特徴的である。なお、前年度調査まで回答選択肢数を主なものを2つに限定していたが、

今年度はいくつでも選択できるものとした。

問 6. あなたは、この1年間に相生町公民館図書室を利用したことがありますか。

分析：公民館図書室の利用率は高いとはいえないが、昨年度の神山町調査と比較すると2倍近い人が公民館を利用している（約15%）。女性の利用率（15%）が男性（11%）よりやや高い。

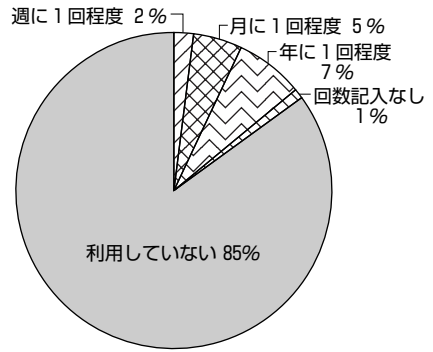


図 8 公民館図書室の利用頻度

問 7(1). 県立図書館の次のサービスをご存じですか。

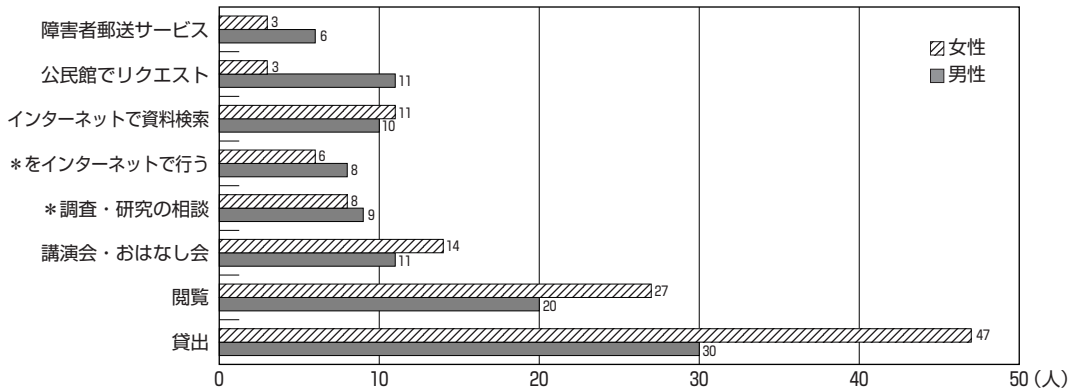


図 9 県立図書館のサービスの認知度

問 7(2). 県立図書館の次のサービスを利用したことがありますか。

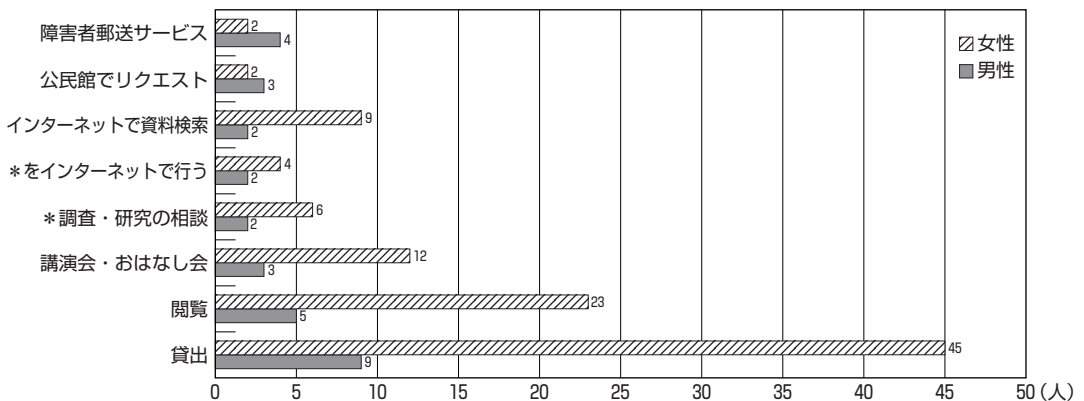


図10 県立図書館の利用状況

分析：貸出は77人が知っていて、そのうち、利用した人は54人（70.1%）で、閲覧は47人が知っていて、利用した人は28人（59.6%）である。調査相談は、知っている人が17人

で利用した人は8人であった。

一方、インターネットによる資料検索は知っている人は21人で、利用した人は11人である。インターネット検索は平成2年から行っているサービスであるが、以前から行っている調査・相談を上回っている。公民館図書室からのリクエストを、知っている人は14人で利用した人は5人である。県立図書館から遠く、相生町内には書店がないことから、リクエストに際しては利用しやすいよう工夫する必要がある。

また、身体障害者郵送サービスは、知っている人は9人で、利用した人は6人となっていて、広報が必要である。講演会やおはなし会は、25人が知っていて参加は15人を数えたことから、講演会やおはなし会の開催は県立図書館の利用を促進していると考えられる。

問8. 県内には27市町村に図書館がありますが、あなたの町についてはどうお考えですか。

表2 読書施設への期待

(単位:人)

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1 町立図書館の設置	0	1	1	3	6	41	11	25	1	2	0	0	1	0	20	72	92
2 公民館図書室の整備充実	2	1	0	3	2	25	3	30	2	1	0	0	1	0	10	60	70
3 読書施設の整備は不要	0	0	0	0	2	6	6	4	0	0	0	0	0	0	8	10	18
4 その他	0	0	0	0	0	6	1	2	0	0	0	0	0	0	1	8	9
5 無回答	0	0	1	2	0	14	10	5	0	2	0	1	0	0	11	24	35
合計	2	2	2	8	10	92	31	66	3	5	0	1	2	0	50	174	224

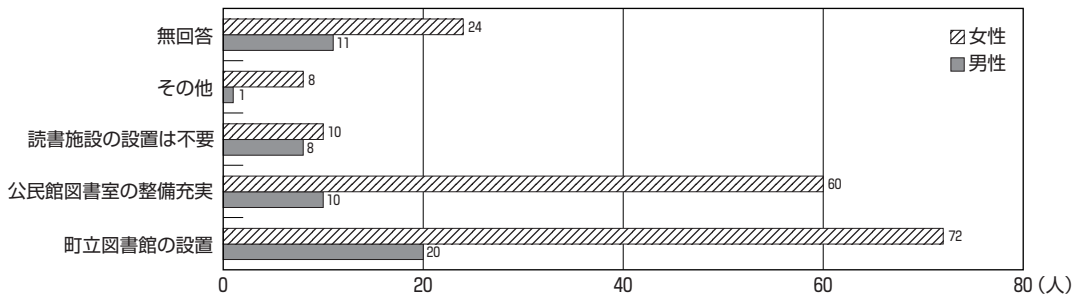


図11 読書施設への期待

分析：町立図書館の設置を望む人は92人（41.1%）、次いで公民館図書室の整備を望む人が70人（31.3%）を数えた。しかし、読書施設は不要という意見は18人（8.0%）であった。その他わからないと答えた人が9人で、包括センターに設置してほしいという意見が1人あった。無回答は35人（15.6%）であった。

図書館の設置と公民館図書室の整備充実を望む意見は、回答数の72.3%に達する。書店が町内になく、近隣の図書館にも遠い本町においては、図書館の設置や読書施設の充実を望む人が多く、早急に何らかの対策が望まれよう。

問9. 相生町公民館図書室や県立図書館への希望があれば何でも書いてください。

相生町公民館図書室に対しては、規模の拡大や、そこで本が読めるようにしてほしいという希望、入りやすくしてほしい、休日利用、本の充実という希望が出された。また、森林美術館に図書室を作ってほしいという意見や、ケアセンターの本の充実という意見も寄せられた。

町立図書館に対しては、相生小・中学校の近くに独立した図書館を建てて子供と共有できるようにしてほしいという意見や、本屋がないので図書館があったらいい、という意見が出された。森林美術館を改造という意見もあった。

県立図書館に対しては、県立図書館の本を町の施設に返却できるように（または、延長手続き）という意見や、貸出期間の延長、絵本のおはなし会を土日に開催してほしいという意見が出された。

公民館図書室の資料については、蔵書を多くすることや、ベストセラーを早く入れるという意見が寄せられた。公民館や図書館の資料について、話題の本や新刊書の提供、専門書、地場産業の活性化に役立つ資料、現代の絵本、コミックスを入れてほしいなど、様々な意見が出された。

問10. 幼稚園以下の小さいお子様がおいでの方にお聞きします。ご家庭や幼稚園でされていることに○をつけてください。（いくつでも○を）

表3 幼児と読書の現状

(単位：人)

	20代		30代		40代		50代	男性 合計	女性 合計	合計(%)
	男	女	男	女	男	女	女			
1 家庭で絵本の読み聞かせをしている		3	5	27		5	2	5	37	42(79)
2 幼稚園で絵本の読み聞かせをしている	1	4	2	22		3		3	29	32(60)
3 公民館図書室で子どもの本を借りている		1		4					5	5(9)
4 図書館で子どもの本を借りている		1	2	6				2	7	9(17)
5 図書館のおはなし会に参加している				1					1	1(2)
6 特に何もしていない				4	1	1		1	5	6(11)
7 その他										0(0)
合計	1	9	9	64	1	9	2	11	84	95

分析：問10は、今年度新たに設定した質問である。回答者（53名）のおよそ8割は、家庭で絵本の読み聞かせをしており、何もしていない人（およそ1割）を圧倒した。公民館図書室または図書館で子どもの本を借りている人は17%であり、公民館図書室で子どもの本を借りている人は、すべて図書館でも子どもの本を借りているという結果が得られた。

2) 児童・生徒対象

小学1年生から中学生3年生までを対象としたこのアンケートは相生町内のすべての

小・中学校の協力のもと299人からの回答を得た。以下にその分析を行う。

表4 回答者の男女別・学年別人数分布 (単位:人)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
男子	16	9	17	18	21	21	16	17	21	156
女子	7	5	17	11	16	21	18	28	20	143
計	23	14	34	29	37	42	34	45	41	299

問1. あなたは学校が休みの時や放課後をどのように過ごしますか。(3つまで○を)

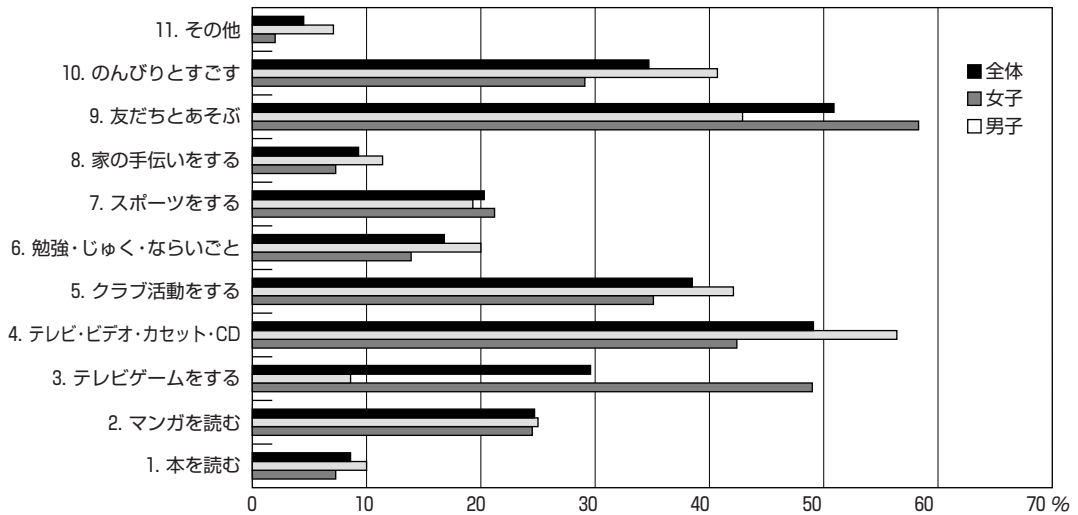


図12 余暇の過ごし方 (男女別)

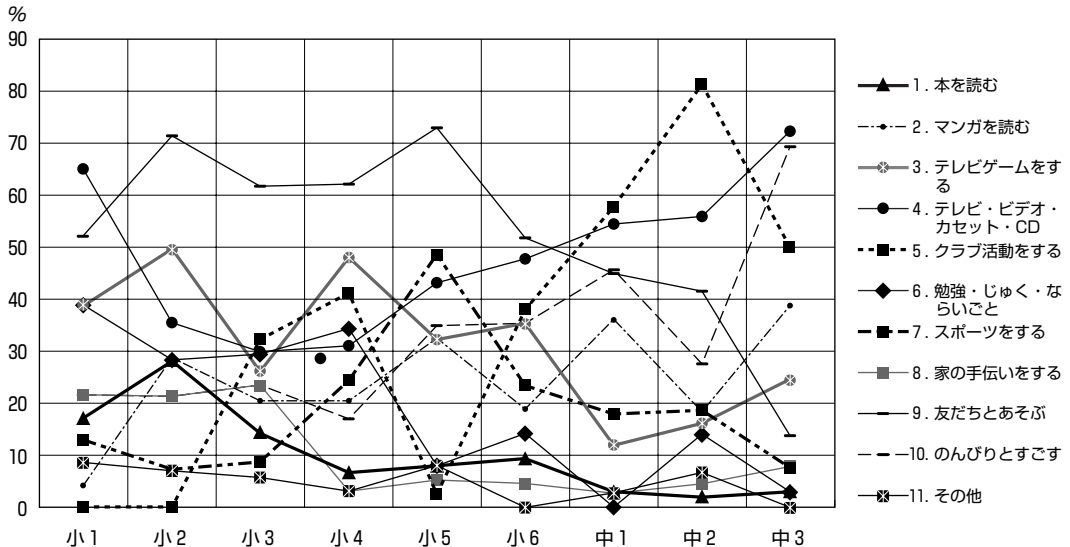


図13 余暇の過ごし方 (学年別)

分析：全体で最も多かったのが「友だちとあそぶ」の148人（50.9%）で、ついで「テレビ・ビデオを見たりカセット・CDを聞いたりする」の143人（49.1%）、「クラブ活動する」の112人（38.5%）となっている。「テレビゲームをする」は5位で86人（29.6%）だった。また、「本を読む」と答えた子どもは25人で、全体の8.6%にとどまっている。

男女別に見てみると、男子は「テレビゲームをする」が、1位の「友だちとあそぶ」の次に多く49.0%であるのに対し、女子は10位で3.0%となっている。

学年別では、「友だちとあそぶ」がコンスタントに上位を占めているが、中3で激減しているのがわかる。「本を読む」は小学校低学年では、15%を超えて比較的多いものの、小4から急に減っていて中学生ではわずか2～3%に過ぎない。

問2. あなたは6月1か月の間に、本を何さつ読みましたか。（マンガやざっしはかぞえないでください。）

表5 学年別・男女別読書量（本）

（単位：人）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	男子	女子	全体
0冊	3	1	6	2	3	7	7	9	12	33	17	50
1～5冊	6	8	16	16	24	28	25	33	28	93	91	184
6～10冊	3	3	7	6	7	6	1	1	1	15	20	35
11～15冊	5	1	3	4	2	0	0	2	0	7	10	17
16～20冊	1	0	1	0	1	0	1	0	0	2	2	4
21冊以上	4	1	1	0	0	0	0	0	0	4	2	6
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無効・無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
計	22	14	34	28	37	42	34	45	41	154	143	297

本の読書量

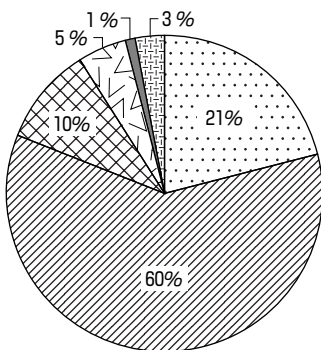
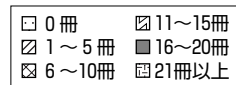


図14 男子

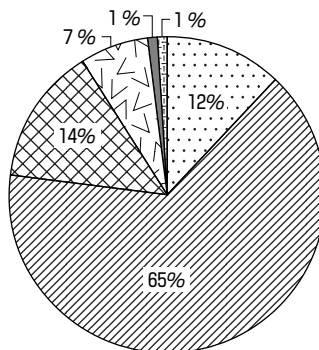


図15 女子

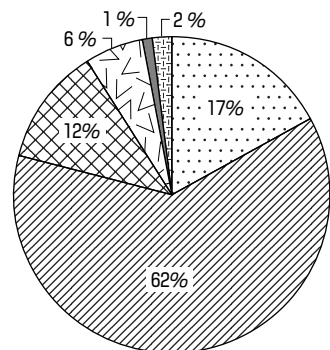


図16 全体

読書班

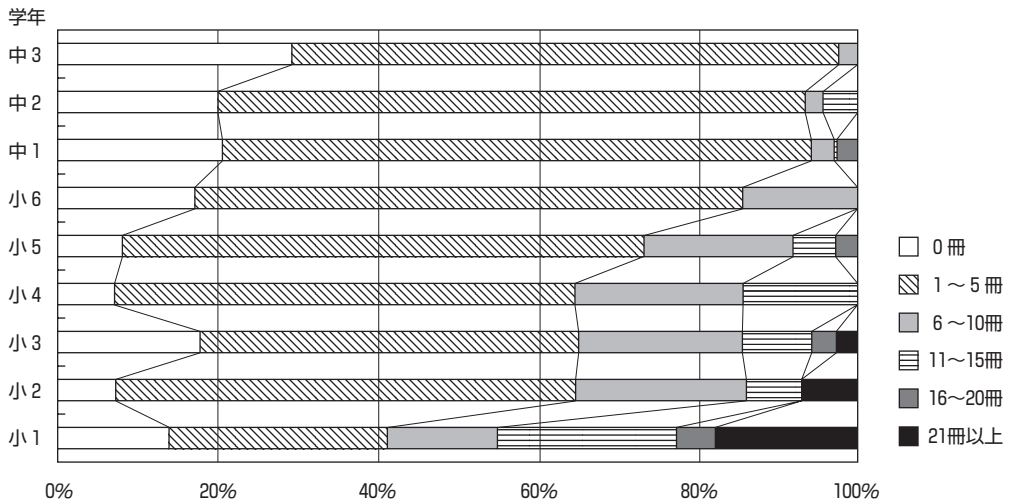


図17 学年別読書量（本）

分析：1か月に1冊も本を読んでいない子どもが全体の17.1%を占めている。そして女子より男子の方がその割合は多い。

学年別で見ると、1か月に6冊以上読んでいる子どもは、小学1年では過半数（56.5%）を占めているが、学年が上がるにつれ急速に減っていて、中学3年ではわずか2.4%にとどまっている。1冊も読んでいない子どもは小学6年ごろからやや多くなる傾向にある。

問3. あなたは、6月1か月の間に、雑誌を何さつ読みましたか。（マンガのざっしはかぞえないでください。）

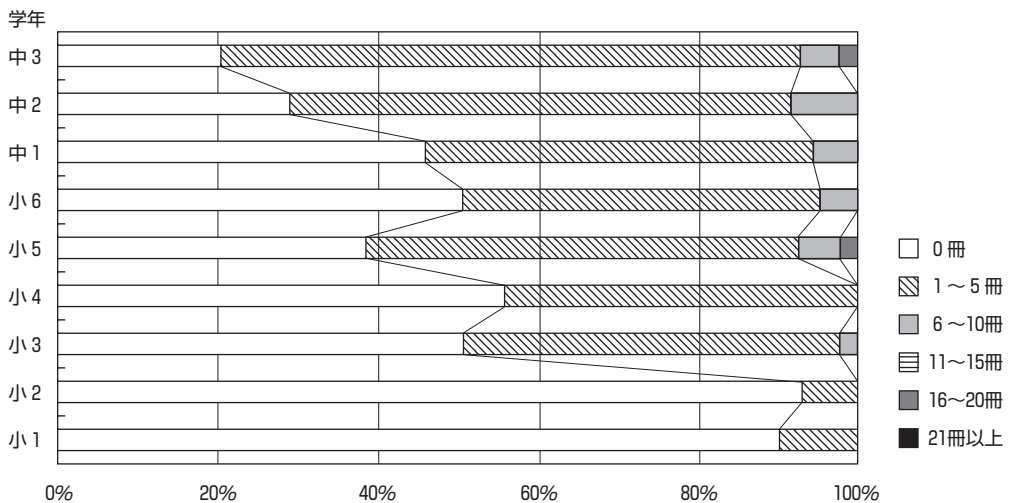


図18 学年別読書量（雑誌）

表6 学年別・男女別読書量（雑誌）

（単位：人）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	男子	女子	全体
0冊	17	12	17	16	14	19	15	13	8	78	53	131
1～5冊	2	1	16	13	20	17	16	28	28	64	77	141
6～10冊	0	0	1	0	2	2	2	4	2	9	4	13
11～15冊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16～20冊	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	2
21冊以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無効・無回答	2	2	0	1	0	3	1	0	2	2	9	11
計	21	15	34	30	37	41	34	45	41	155	143	298

分析：1か月に1冊も雑誌を読んでいない子どもは全体の45.6%で、本と比べてかなり多くなっている。特に小学校1、2年では96.0%の子どもが1冊も読んでいない。これは、低学年向けの雑誌の種類が少ないからと考えられる。

男女別では、6冊以上の多読者は男子の方が多く、本の場合と逆の結果になっている。

問4. あなたは6月1か月の間に、マンガ（マンガ雑誌、コミックなど）を何さつ読みましたか。

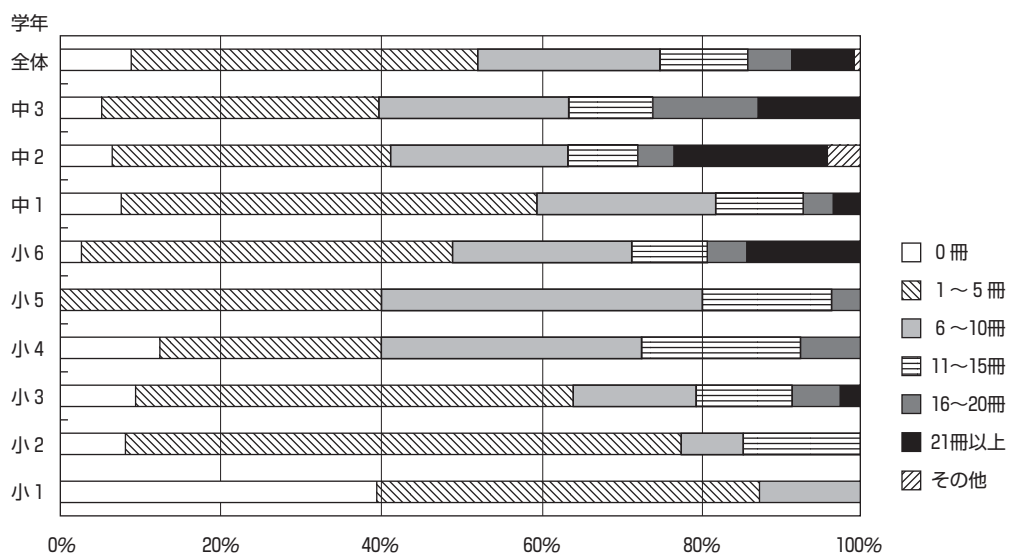


図19 学年別読書量（マンガ・コミック）

分析：小学1年で0冊との回答が40%あるのが目につく。小学2年でも1～5冊までが80%である。小学4年ごろから月6冊以上という回答が増え、小学6年から中学生ごろは、21冊以上という回答が20～30%に増加する。

問5. あなたは、6月1か月の間に、カセット、CD、ビデオなどをいくつ見たり聞い

たりしましたか。

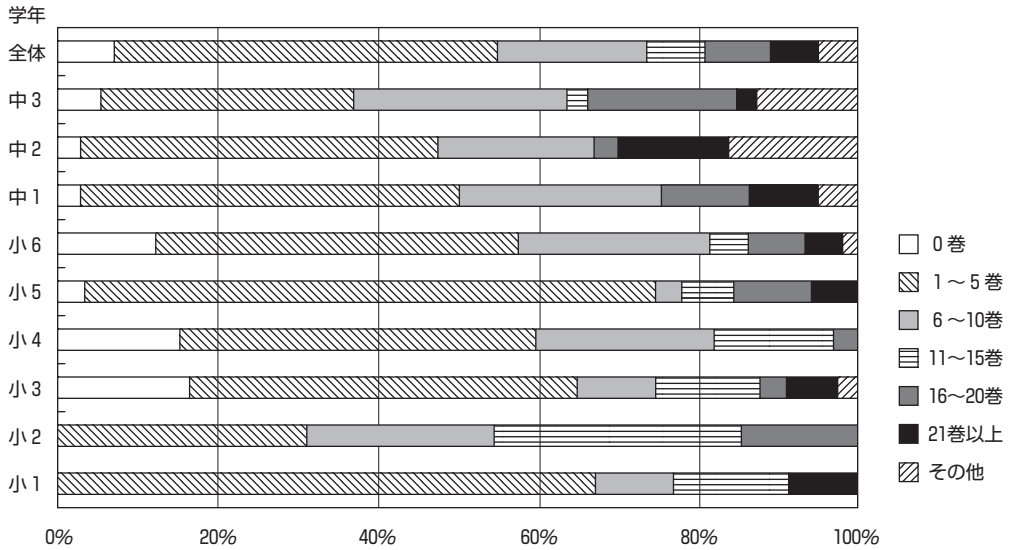


図20 AV資料視聴量

分析：AV資料の利用はかなり多い。中学生では、6～10巻以上という回答が50%以上になり、「その他」と答えた生徒の中にも、「数え切れない」という回答が多かった。

問6. あなたは本や雑誌をどのようにして借りたり買ったりしていますか。(複数回答可)

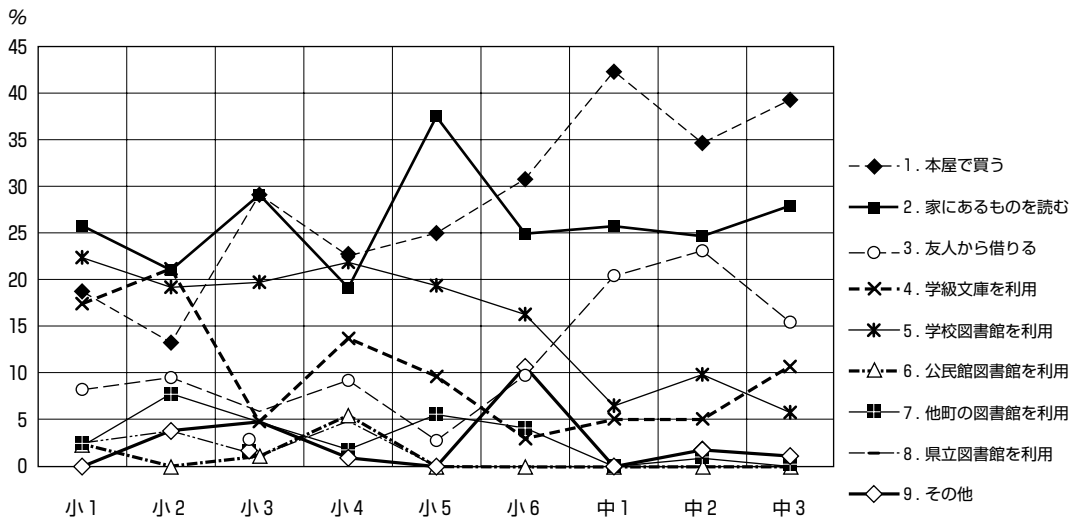


図21 図書資料の入手方法

分析：本屋の利用や友人との本の貸借が小学6年ごろから急増する。問4のマンガ・雑誌の入手と関連がありそうである。学校図書室の利用はこの頃から低下傾向が見られる。

問 7 (1). 6 月 1 か月の間に学校の図書室に行きましたか。

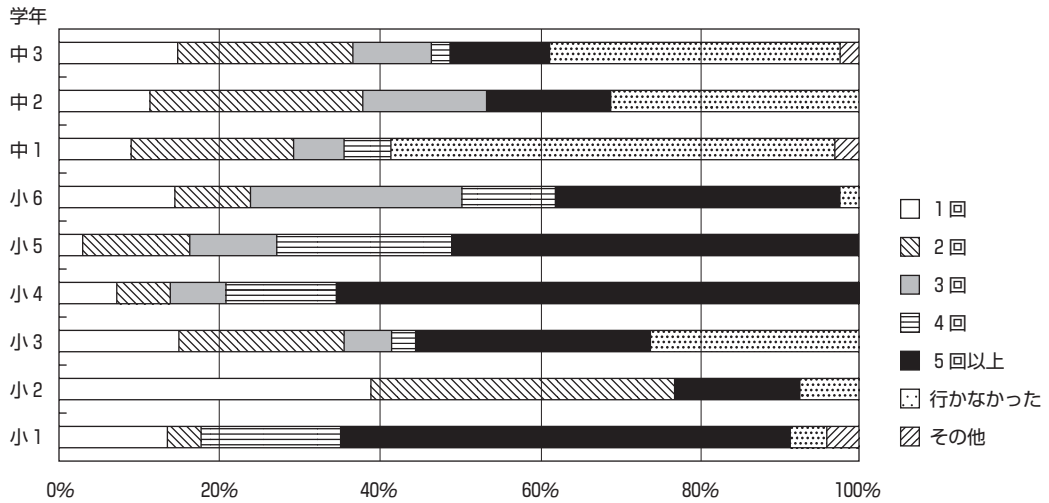


図22 学校の図書室の利用回数

分析：学校図書室の利用は、小学校では5回以上の利用者が、2年を除き、40～60%であるが、中学校では1年の利用率が低く、2・3年でも5回以上利用した生徒が10～15%程度であり、利用しなかった生徒の割合が30～60%に増加している。

問 7 (2). 学校の図書室に何のために行きましたか。(複数回答可)

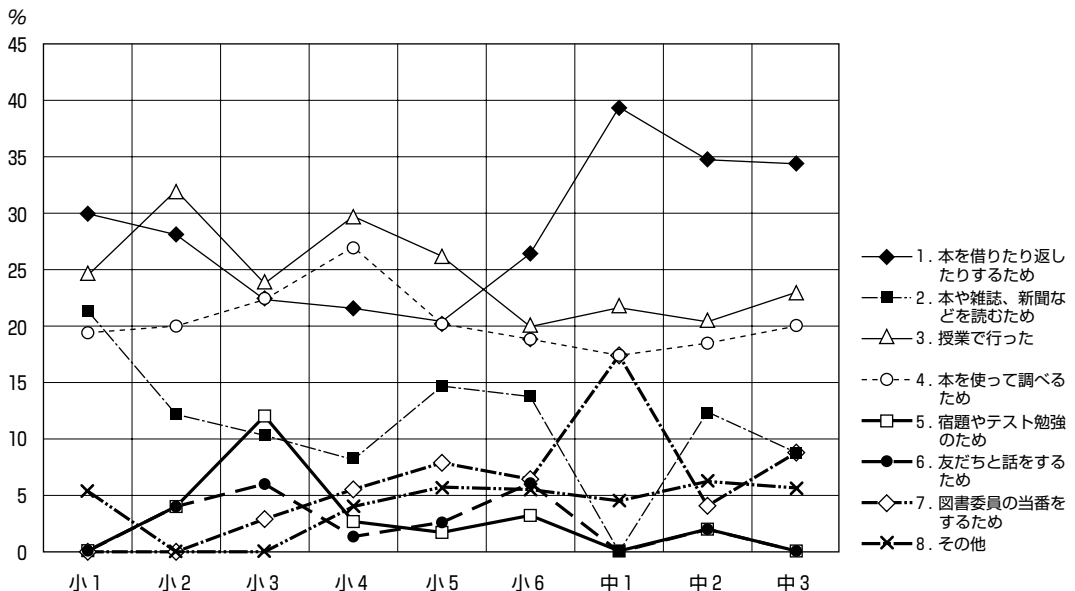


図23 学校図書室の利用目的

分析：中学生では、図書の貸出や返却による利用などが30%以上で突出しており、これに対して、小学生では、授業や調べ学習に利用する割合も高い。

問 8． 6月1か月の間に公民館図書室に行きましたか。

問 9． 6月1か月の間に県立図書館に行きましたか。

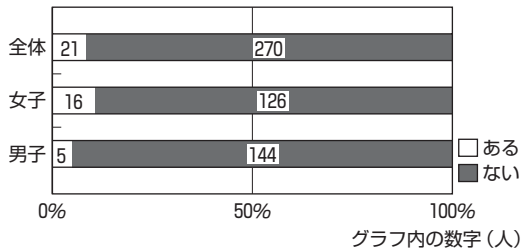


図24 公民館図書室の利用

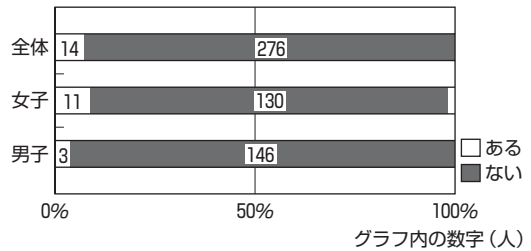


図25 県立図書館の利用

分析：問 8・問 9とも、「行かなかった」という回答が大半を占めた。男女別では、女子の方が「行った」と回答した割合が高かった。県立図書館は距離的に遠いこともあり、相生町の小・中学生にとって気軽に通える場所ではないようである。

問10. 学校の図書室、公民館図書室、県立図書館への希望があれば何でも書いてね。

資料：漫画を置いてほしい (16人)．本を増やしてほしい (3人)．本が少ない (2人)

サービス：毎日開いてほしい (1人)．返却日を延ばしてほしい (1人)

環境：エアコンをつけてほしい (1人)．パソコンを設置してほしい (1人)

その他：相生町に図書館がほしい (3人)

4. 学校図書室と相生町公民館図書室見学 平成12年7月14日

西納小学校：週1回朝の読書活動を行っている。図書室は2階にあり、朝(週4回)、昼、放課後に開けている。個人貸出と学級文庫貸出があるが、高学年になると貸出は少なくなる。平成11年まで県立図書館から町の教育委員会を経由しての配本(以下皆同じ方法)があった。子どもは新本に敏感である。

平野小学校：125年の歴史のある小学校。現在の校舎は、ホテル・ペンション風のしょんしゃな建物であるが、小学校統合後の利用については検討中である。図書室は、子どもが学校にいる時間はいつも開けている。子ども1人当たり年間70~80冊本を読んでおり、夏休み中に10冊くらい読む子もいる。担任の指定図書のほか、歴史、クイズ、料理の本の利用が多い。図書費は年10万円くらい。県立図書館から新しい本が来ると奪い合いの状態

であった。相生町に書店はない。阿南市立図書館や那賀川町立図書館で本を借りてくることもある。

延野小学校：週2日20分間ないし週3回（火、木、土）8時20～30分を読書の時間としている。図書委員が校内放送を行い、業間20分間図書室で本の貸出をしている。平成13年に小学校が統合されるため、平成12年8月3・4日にキャンプファイアーを行い、住民に小学校を開放する。

日野谷小学校：図書室は校庭の見える広い部屋であった。学級文庫から選んだ本で朝の読書をしている。昼休みが貸出の時間である。新しい本は、本屋のカatalogをもらって生徒にアンケートを配り、投票してもらって購入を決めている。

相生中学校：月に1週間、朝15分間を読書の時間としている。1人1冊2週間貸出、夏休みは3冊貸出、返却日は9月1日または登校日。学級文庫は月1回図書委員が入れ替える。図書室の壁には図書購入希望アンケートの袋が掛かっていた。

公民館図書室：相生町老人福祉センター（相生町教育委員会）の1階ロビーには徳島県立図書館からの配本が低書架に並べられており、同センター2階の一室が図書室になっている。

図書館からの配本は他にも各小学校や日野谷・平野の診療所建物に置かれ、貸出が行われてきた。しかし、図書館からの配本車による一括大量貸出は平成11年度で終了し、12年度からは町村教育委員会が図書館に来館し選書した本を貸し出す制度（来館貸出）に変更されたが、相生町は来館貸出を利用していない。

図書室入口すぐの書架には新刊書、課題図書、ベストセラーや話題の本が置かれている。全体的に小説を中心とした蔵書構成で、推理小説、児童書、町村史の書架もある。利用者は教育委員会の事務室に声をかけるだけで、図書貸出票ノートに書名、氏名などを自分で記入して本を借りることができる。図書の購入は、年2回、隣村の書店に話題になった本や課題図書などを中心に買いに行き、このとき町民からのリクエスト本も購入しているとのことであった。

図書室の蔵書は約8,900冊であるが、新刊書の割合はかなり低い。利用をふやすためには、ある一定の新鮮な資料は欠かせない。町民からのリクエストにこたえるためにも、県立図書館の予約サービス（協力貸出）の活用とPRに期待したい。

5. 座談会

日 時：平成12年7月14日（金）

会 場：相生中学校

参加者：幼稚園・小学校・中学校の先生7人、小学生・中学生の保護者4人

相生町教育委員会職員 1 人、読書調査班 7 人

相生町には町立図書館がなく、近隣の町村にも図書館がない。本や雑誌を入手するには近い場合でも鷲敷町や阿南市、羽ノ浦町などの書店や図書館に車で出かけることが多い。那賀川町立図書館をはじめ、阿南市、牟岐町、穴喰町の図書館も利用している。

相生町内の 4 つの小学校は今年度限りで 1 校に統合される。山間部では子どもたちの多くがバス通学しており、学校で過ごす時間が長い。そのため学校が遊び場であり、読書の場ともなる。

幼稚園では、いつでも自由に利用できる絵本の部屋を設けている。園では先生が毎日絵本の読み聞かせをしていて、毎週土曜日と長期休暇の前には家庭に絵本を貸出している。

小学校では、4 校とも朝の読書の時間を設けている。学級文庫は毎月 1 回入れ替えている。図書室では図書委員の児童が貸出をしている。

平成13年度に統合される 4 小学校と、相生中学校での座談会



西納幼稚園・小学校



平野小学校



相生中学校（座談会）



延野小学校



日野谷小学校

中学校では、図書室を昼休みに開室している。中学生の読書量は小学校時に比較して低下する傾向があり、図書室を利用する生徒が限られてきている。

小学生の保護者によると、親子で絵本を楽しんでいるということであったが、高学年になるにつれて、アニメ、ビデオ、ゲーム、CDなどに熱中してマンガさえ読まなくなる。子どもは本の読み方がわからず敬遠している。子どもを本好きにするにはよほど工夫が必要だ。また、子どもの本についての情報が少なく、どんな本が出ているのかわからない。手にとって見られないので、インターネットの情報だけでは限界があるという意見も出た。

県立図書館に対する要望としては、遠隔地の利用者に対するサービスがもっと必要ではないか、親しみやすい本を入れてほしい、マンガ・週刊誌・スポーツ新聞なども所蔵していることをもっとPRしてほしい、開館時間を延長してほしいといった意見が出された。

6. まとめ

相生町の読書調査では、成人（幼稚園児と小中学生の保護者）と小学1年生から中学3年生までの児童・生徒を対象にアンケート調査を行った。

余暇の過ごし方では、「のんびりと過ごす」「テレビ・ビデオ」が多く、次に男性ではスポーツ、女性ではショッピングであった。「読書」は男性で6位、女性は4位であった。

1か月に読む本については、男性52%、女性43%の人が読んでいないと回答している。この数値はかなり高いといえる。近くに書店や利用しやすい読書施設が少ないという相生町における読書環境の条件が、読書の機会を減少させていると思われる。

本や雑誌の入手先は、書店が最も多い。公民館図書室の利用は約15%の人が利用していて、昨年度の神山町の調査と比較して2倍近い人が利用している。県立図書館の利用では貸出と閲覧が多く、講演会・おはなし会への参加やインターネット検索も行われている。県立図書館の閲覧を実際に利用した人は、知っている人の、59.6%で、調査・相談を利用した人は47.1%と、閲覧や調査・相談等については、利用しやすさへの工夫が求められる。

保護者アンケートによれば、読書施設の設置は不要という人が8.0%あり、その他や無回答の合計が19.6%であるものの、72.3%の人が図書館の設置や公民館図書室の整備充実を求めており、読書施設への要望は高い。

家庭における幼児への絵本の読み聞かせは79%の人が行っており、相生町では良く取り組まれている。読書調査のアンケートに寄せられた町民の意見が、効果的に反映され、読書活動の盛んな相生町になることが望まれる。

児童・生徒については小学校4校、中学校1校の299人から回答を得た。余暇の過ごし方では、「友だちと遊ぶ」「テレビ・ビデオ」「クラブ活動」などが40～50%で多く、「本を読む」は小学2年までは20～30%いるが、中学校では10%に満たない。その反面でマンガ

の愛読者が増加している。1か月間に読む本の冊数では1～5冊の子どもが60%で、男女の差はあまりない。学年別では、小学5年までは月6冊以上の児童が30%ほどいるが、中学校ではほとんどいなくなっている。教育のつながりという点と子どもの主体性という点で困難な問題もあると思われるが検討すべき部分があるように思われる。

雑誌については小学校の高学年あたりから興味を示すが、中学3年では読まないものも20%ほどを占めた。マンガ等についても月11冊以上が中学2・3年で40%近くになっているのが目につく。活字中心の読み物は、学年があがるとともに敬遠される傾向がある。それに対してカセット、CD、ビデオなどは問5の結果にも明らかなように、学年によらず高い数字を示しており、特に、家庭を中心に子どもたちの情報の享受が、映像や音響機器により形成されているともいえる状況にある。こうした中で、学校図書室や公共図書館の活用が期待されるが、これについても小学校では授業での利用等により、調査対象とした1か月間に全く利用しなかったという子どもは少ないが、中学校では該当者が30～60%いる。問10での子どもたちの要望として、マンガ本の購入、開館日の増設、エアコンやパソコンの設置、資料の充実等が出されているが、柔軟な頭脳を有する義務教育期の子どもたちの感性や思考を深め、21世紀の地域社会を活性化するためには、家庭や地域で、情報収集のための環境整備という視点を持つことが、重要なことであろう。